

令和4年第1回定例会

議会だより

● もくじ

第1回定例会及び第1・2回臨時会 審議された議案と結果……………	P 2
第1回定例会	
議案の審議……………	P 4
総括質疑……………	P 8
予算特別委員会……………	P 14
第1・2回臨時会……………	P 26
議会の動き……………	P 28
編集後記……………	P 28



介護サービス事業特別会計 (第1回)	不用額の減額、コロナ禍の状態変化に伴い、給付費を減額、繰入金を増額により10万円の減額	原案可決	
後期高齢者医療特別会計 (第2回)	後期高齢者医療広域連合納付金83万5千円を減額	原案可決	
簡易水道事業特別会計 (第2回)	消費税還付金による増額、事業費確定に伴う地方債の補正、不用額の減額など30万1千円を増額	原案可決	
公共下水道事業特別会計 (第2回)	事業費確定による国庫支出金増額、地方債の減額 汚泥脱水機の修繕費、汚泥処理経費増などにより26万2千円の減額	原案可決	

<財産貸付>

財産の無償貸付について	郷の駅商業施設の賃貸料を令和5年度分まで免除	原案可決	質問あり 6ページ
-------------	------------------------	------	--------------

<発議案>

喜茂別町議会委員会条例の一部を改正する条例	内容：課設置条例の改正に伴う条文改正 提出者：菊地議員 賛成者：小川議員 阿部議員	原案可決	
喜茂別町議会議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	内容：期末手当の減額 提出者：菊地議員 賛成者：小川議員 阿部議員	原案可決	

<意見案>

米政策の見直しに関する意見書	内容：水田活用交付金見直しに対し、現場の意見反映を求める意見書 提出先：内閣総理大臣 農林水産大臣 提出者：菊地議員 賛成者：小川議員 阿部議員	原案可決	
----------------	--	------	--

<決議案>

ロシアによるウクライナへの軍事侵略に対する決議	提出者：菊地議員 賛成者：阿部議員 小川議員 山下議員	原案可決	
-------------------------	--------------------------------	------	--

令和4年第1回臨時会（1月12日）

町長より1件の行政報告がありました
①ロータリー除雪車の故障について
審議内容は以下の通りです

<令和3年度補正予算>

一般会計（第10回）	住民税非課税世帯、家計急変世帯、子育て世帯の臨時特別支援事業費、国鉄胆振線代替輸送確保基金繰入金など7906万7千円増額	原案可決	質問あり 26ページ
------------	--	------	---------------

令和4年第2回臨時会（2月15日）

審議内容は以下の通りです

<令和3年度補正予算>

一般会計（第11回）	全国中学校スキー大会出場経費として40万円増額（専決処分）	原案承認	
一般会計（第12回）	旧教員住宅等の修繕費、住基システム改修経費、ウサパラ号修繕費、町立クリニック超音波診断装置購入費、観光関連産業事業継続支援金、国民年金システム改修、町道除排雪委託料など4668万1千円増額	原案可決	質問あり 27ページ

令和4年第1回定例会（3月9日～3月14日）

3月9日	町長より以下3件の行政報告がありました ①クレードル興農株式会社の状況について ②倶知安厚生病院に係る第2期整備事業の状況について ③きもべつ浄化センターの汚泥脱水機の故障について 下表の審議（一部は別日程） 令和4年度予算においては、3月14日に予算特別委員会を設置し集中的に審査（14ページ参照）
3月10日	町長より令和4年度町政執行方針 教育長より令和4年度教育行政執行方針 総務課長より令和4年度一般会計・5特別会計予算提案
3月11日	町政執行方針、教育行政執行方針に対する総括質疑（8ページ参照）
3月14日	予算特別委員会（14ページ参照）

<令和4年度予算>

一般会計	修正案（原案からプロジェクトマネージャー報酬分650万円減額）が提出され、可決 総額 28億2838万5千円	修正可決	予算特別 委員会 14ページ
国民健康保険特別会計	総額 7032万2千円	原案可決	
介護サービス事業特別会計	総額 2060万円	原案可決	
後期高齢者医療特別会計	総額 4301万7千円	原案可決	
簡易水道事業特別会計	総額 9615万2千円	原案可決	
公共下水道事業特別会計	総額 2億1015万6千円	原案可決	

<条例改正>

喜茂別町課設置条例	まちづくり振興課を新設、産業振興課を農林課に改める	原案可決	質問あり 4ページ
職員の給与に関する条例	期末手当の減額など	原案可決	
特別職の職員の給与及び旅費に関する条例	期末手当の減額	原案可決	
特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例	学校運営協議会を設置し、委員の報酬を日額6千円とする	原案可決	質問あり 5ページ
喜茂別町職員の育児休業等に関する条例	非常勤職員の育児休業の在職期間の要件廃止、任命権者が職員に対して育児休業に関する制度、承認の請求先を知らせるなど	原案可決	
国民健康保険税条例	未就学児の被保険者均等割額の減額	原案可決	
喜茂別町営住宅管理条例	障害者差別解消法の趣旨に則る改正	原案可決	

<条例制定>

双葉ダム管理条例を廃止する条例	双葉ダム管理条例（平成8年条例第10号）の廃止	原案可決	質問あり 6ページ
-----------------	-------------------------	------	--------------

<令和3年度補正予算>

一般会計（第13回）	全日本ジュニアスキー大会兼全日本小・中学生スキー大会出場経費として36万円増額（専決処分）	原案承認	
一般会計（第14回）	各科目の不用額の減額補正、胆振線代替バス路線維持費補助金の増などにより2057万6千円を増額	原案可決	質問あり 7ページ
国民健康保険特別会計（第2回）	基盤安定負担金交付決定による減額、財政安定化支援事業参入額確定による増額、検診受信者減に伴う後志広域連合支出金の減額、事業費確定に伴う不用額の減などにより24万7千円の減額	原案可決	

議案の審議要旨

喜茂別町課設置条例の一部を改正する条例の制定

岩部議員

まちづくり振興課ができるが、課を増設する意味合いを伺う。

内村町長

まず一つは総合計画の着実な推進と第2期人口ビジョンの確実な達成に向けて課の体制を整備していくことがある。

脱炭素の部分についても、まちづくり振興課で取り組みを進めていくという課題があるので、そういった課題等々を十分達成していける体制を作っていく中で今回この課の設置をする。

岩部議員

脱炭素ということ、新たにゼロカーボン推進室が作られるが、ゼロカーボン推進における本町のメリットはどのようなものと考えているか。

内村町長

脱炭素を推進していくことによつてまちの様々な経費の削減に繋がるのが想定される。

今年の冬は特に原油高といったこともあって、灯油代等々がかなり上がってきている状況もあるが、再生可能エネルギーを使うことによつてランニングコストを削減していけると思う。

またゼロカーボンを進めていくことにより、様々な再生可能エネルギーの利用、維持等を含めて地域の中で今まで域外に出ていた経済の部分を域内で、循環させていくことが可能になるのではないかと思う。

それらが実現すると、雇用が域内で創出をされてくることになると思うので、そういったメリットはあると考えている。

岩部議員

新たに課長補佐を4人増やすようだが、その意味合いはどのようなものか。

内村町長

一つには人材の育成といったものがある。

課題が多岐にわたる部分もあるので、一人の課長で課の中を掌握していくというよりは、複数の管理職が課の様々な状況を掌握していくことが今後の様々な課題に対して対応していくにあたって、必要な機構ではないかという状況の中で課長補佐を新たに設置することに考えが至った。

岩部議員

副町長を置いてほかの課長補佐は置かない体制にした方がよいと思うが、副町長を置かないということについてどのようなように考えているか。

内村町長

財政状況の厳しい状況の中で様々な課題はあるが、副町長を置かずなんとか現有の中で進めていける体制を作っていくこと

いうことで今回そういったことに至った。

財政状況が好転をすれば、副町長を置いて体制を整えていくといったことについてはやぶさかではない。

岩部議員

副町長を置かないで課長補佐職を増やすということは財源的にどのようなメリットがあるか。

内村町長

副町長を置くと1千万円ちよつとの人件費がかかると思う。

課長補佐に数名上げると、管理職手当が増えるということになるが、これまで一般職の中で時間外手当等々が発生していた部分について差引する。

管理職手当自体については4名でも数百万円くらいかと思うが、時間外手当の部分を差し引くと更にその部分が小さくなり、メリットがあると思う。

阿部議員

副町長を置かず課長補佐を置く、私には歪にしか見えない。人材育成と発言されたが、各課長と議論を熟知したのか。

内村町長

昨年の春から業務量調査の中で、業務の状況を把握する為、職員と各管理職とのヒアリング、意見調整の機会を何度も設けた上で原案を作成し、意見交換の機会を設けてきた。

阿部議員

新たにまちづくり振興課が創設され、16項目の多種多様の業務があり、地球温暖化対策に関することも書かれている。

昨年町長がゼロカーボン宣言を行ったが、地中熱・水力発電・森林整備のどれを選択するのか。

内村町長

以前から公共施設等で利用している地中熱、今民間事業者でも進めている小水力発電の関係、その他これだけの森林を持っているのでバイオマスの関

係で利用できるものもある。

上手に重ね合わせた中でゼロカーボンに向かって進んでいくことが本町のメリットになると考えている。

阿部議員

本町には森林が約82%あり、町の所有する森林が60町歩ある。

森林整備、いわゆる間伐をして森林を育成することが本町にとつて考えられる施策ではないか。

内村町長

森林の環境は、大変大きな財産であり、上手く活用し、活性化に活かしていく必要があると思う。

これまで整備をしてきたが、すでに伐期にきている町有林があり、森林の活用について検討を進めて行きたい。

菊地議員

機構の見直しに伴い仕事量が増える中で、職員数が増えないということは、財政的なことを考慮しての体制だと思うが、長い時間経つてくると職員の中に

必ず業務増大による不満が起き、業務の遂行がうまくいかなくなるのが想定される。

これだけ管理職が増えた組織なので、管理職会議の中で、十分にその辺の議論を吸い上げてそれを課の方に落として各職員が理解を得るような努力が必要だと私は思っているが、町長はどのように考えているか。

内村町長

課の設置というのはあくまでも形の話だと思う。

その中にどのような魂を入れていくかが肝要だと思うので、今後の管理職会議含め様々な形で職員との意見交換をはじめ、業務にあたつての十分な機構が活かせるような取り組みを進めたい。

山下議員

課長と課長補佐を新しく設置することによって財政的にはいくらか増減するのか。

菊地総務課長

2百万円弱ぐらい増えると見込んでいます。

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

岩部議員

学校運営協議委員は、今までの学校評議員とどのような違いがあるのか。

細田教育長

学校運営協議会は、合議制の機関であり、地教法47条に基づいた学校運営等について関与する一定の権限を付与された組織である。

学校評議員は、学校管理規則に基づいた組織で、大きな役割は、学校評価等に関して意見を述べるものである。

岩部議員

学校運営協議会委員は何名置く予定か。

細田教育長

20名以内で規定をする予定である。

山下議員

学校評議員と学校運営協議会委員の報酬の財源は一般財源なのか。

丸屋教育次長

一般財源で措置する。

山下議員

学校評議員と学校運営協議会委員は似ている部分もあると思うが、一つにすることは考えてはいないのか。

細田教育長

法的根拠でいくと明確に分かれているが、その類似性からしてどのような組織建てがいいのか、今後検討してまいりたい。

双葉ダム管理条例を廃止する条例の制定

松田議員

本町の農家は無制限に尻別川は枝川に巨管を入れて水を吸っていることが堂々とまかりとおっている。

けれどもSDGsやカーボンゼロの関係からいっても、そう

は将来的になっていかないと思う。

よその町村では水利に関しではきちっとしたインフラの整備がなされているはずである。

本町はこの双葉ダムの関係と繋がった中でずっと野放しにされてきた。

言葉悪いけれども行政の不作為があつたのではないかという気がする。

そういう水利に対してのインフラ整備に関しての問題意識を町では持っているのか。

もし持っていないとしたら、この負担金の廃止を契機に、きちっとした議論をして、町内の農業振興を考えて水利の正当性や合理性を確立してもらいたい。

内村町長

町としては以前に営農水道の関係を整備しているので、基本的にその中で対応をしていたただく考え方である。

ただ、昨年の干ばつもある中で、今後状況も踏まえて新たに例えば何かの水源を見つけないければならないのか、もしくは本町の場合であれば地下水の利用

かない。

結局こういうことをしていれば町民の税金が投下される。

こんなことやつたって、絶対成功裏には終わらない。

だから、早急にこの問題は処理するように検討してほしい。

内村町長

早急に検討して、事業者の方とも調整を図っていきたい。



郷の駅

というのも一つ考えられるのかとも思うが、そういったところの調査も含めて、今後営農用に對する水の利用について少し検討をしていきたい。

財産の無償貸付について

小川議員

郷の駅の無償貸付の期間を延長する理由の中に、運営を評価している部分があるのか。
あと、無償貸付期間は最大何年間までと決まっているのか。

内村町長

事業者には、非常に頑張っていただいていると思っている。
無償貸付の期間は、特に何年という定めが法的にあるものではない。

菊地議員

当初の収支計画に対して実際の何割程度減少しているのか。

大元産業振興課長

年間目標金額と比較して、令和2年度で達成率が約30%、令和3年度現在進捗中ではあるが見込みで約46%の達成率と事業

令和3年度喜茂別町一般会計補正予算(第14回)

山下議員

火葬場の維持管理費負担金で留寿都村の負担金が大幅に減っているが、理由と対策があれば教えてほしい。

井原住民課長

留寿都村の使用件数が少ないことから、負担金も減額している。

今後については、使用状況にもよるが、引き続き留寿都村と協議していきたい。

山下議員

おそらく別の町の火葬場を使っていると思うが、本町を使つてくださというふうにはしないのか。

井原住民課長

主体的なPRするという部分については、微妙なところもあり、継続して努めてまいりたい。

山下議員

元々留寿都村が廃止にして、喜茂別で使うという前提で負担

者から聞いている。

松田議員

2年間仮に支払い延長したとしても1年目2年目で30%40%の事業達成率の中で、2年経ったら支払いできるように改善されるという想定はどうやったらかつのか。

内村町長

一番大きな問題としてはコロナがどの段階で収束するかだと思ふ。

ただ、少しずつではあるが経営の達成率も上がってきているので、引き続き経営の努力をしていただくことを事業者にお願しながら、なんとかコロナが少しでもいい状況になるように願っている。

松田議員

企業経営だから当然資金調達等に対しても努力が求められると思う。

でも、建物は町のもので家賃を2年間猶予し、そしてまた2年間猶予し、土地は町のもの。それなら企業感覚からしても、例えば金融機関に融資の申

金を計上したと思うが、蓋開けてみたら半分以上が使っていないかった。

何でこんなにずれたのか。

井原住民課長

昨今のコロナにより本町の火葬場の使用を控えるという諸事情もあり、負担金の算定については、なかなか見込めない状況である。

本町の火葬場として引き続き利用できるような工夫、対策には努めるが、主体的にはご利用なさっている方々によるので、受け入れ体制だけは継続して努めていきたい。



喜茂別町火葬場

総括質疑

要旨（3月11日開催）



阿部昭司議員

阿部議員

ウサパラ号については、何度か質問した経緯がある。

昨年10月にダイヤ改正をしたルート、時刻表を見る限り、1ルート双葉・御園・金山線、2ルート留産・比羅岡・栄・福島線と以前と変わっておらず、町の中心部のルートがない。

昨年の回答では集落だけではなく市街地の高齢の方の買い物、病院等の足として検討するとあったが未だに改善されていない。

令和4年度はどのような考えか。

内村町長

既存の停留所方式がいいのか、前に提案があったデマンド

方式がいいのか、ミックスした形も含めて、今後の公共交通のあり方について令和4年度の早いで結論を出したい。



岩部 剛議員

岩部議員

地域産業の振興の中に農産物のブランド化とあるが、本町における様々な農産物の中で特にどのようなものを指すのか。

本町においてはよういて農協というブランドのもと、農産物を生産しているが、ここであえて喜茂別町のブランド化と謳っているのは、どのようなものを指しているのか。

内村町長

農協での生産も当然あるし、経由しない生産の方法もあるかと思う。

喜茂別のブランド化においては、例えば農協に出荷するとうてい農協という形で喜茂別という名前はあまり出ない状況になる。

喜茂別の生産しているものという形での出荷を検討していく中で、新たなブランドもできていくと思う。

これまで郷の駅で様々な方が少しずつではあるかもしれないが、色々な野菜を販売されている。

そういったところも含めて、喜茂別のおいしい野菜をブランド化していければと考えている。

どの品目についてどうだというのはまだこれから検討していかなければならない部分もあるが、喜茂別でできた生産物について、質の高いものを追求して、

消費者の方々にPRしていく。そういったものの一つとしてこのブランド化を捉えて進めていきたい。



グリーンアスパラ

岩部議員

広域連携では羊蹄山麓の町村連携が重要になるとのことだが、ゼロカーボンの推進において近隣地域で協力して取り組むことのビジョン、また町民がどのように生活しやすくなるのか考えを伺う。

内村町長

ゼロカーボンについては、先

内村町長

基本構想については、推進委員会を立ち上げて、ワークショップ等々を行いながら、構想を取りまとめている。

2月に報告はいただいているが、今現在国の最終的な審査を受けている段階で、まとまれば概要をお知らせしたい。

大規模なものよりは小規模とどうか、景観等も含めて十分配慮した取り進めが重要であろうということになっている。

その規模の中で色々なものをミックスしながら検討していくことが望ましいのではないかといいことで進めていこうということである。

また、現在環境省が進めている先行地域の関係については、今後5年間で全国100か所以上の先進地域を作っていくということなので、今の段階で何年というのとはなかなか言えないが、後半の部分を目指して、先行地域に名乗りを挙げられるような取り組みを今後進めていければと考えている。

プラごみの関係についてだが、プラスチックごみを一括回

と考えている。

岩部議員

2年以上にわたる世界的なコロナウィルス感染症の拡大の中、教育行政においても大変苦労されていると思う。

コロナ禍における保育行政、学校教育のあり方について考えを伺う。

細田教育長

オミクロン株に変わってから若年層へ広がっており、本町においても学校及び保育所において大きな影響を受けた。

基本的には国が示す、まん延防止重点措置又は緊急事態宣言等に基づいて対応をとるところであるが、本町では、学校及び保育施設において感染状況が続いているので、国が示すレベル以上の対応をしている。

また、保育所においても学校の衛生管理マニュアルに準じた対応をしている。

また羊蹄山麓で取り組むことによって、例えば太陽光発電のパネルの維持、管理についても、この地域の中で雇用を創出することにより、本町にとってもメリットが生まれるのではないか

収することによって交付税の算定とかが若干優位にはかられるような取扱いもあるというふうに報道では見えている。

現状の回収の仕方でいいのか、令和4年度の中で衛生委員の皆さんも含めて、様々な検討を進めていければと思っ

山下議員

野生鳥獣による農業被害の防止対策について、「引き続き近隣町村と情報共有する」とあるが、羊蹄山麓7町村における鹿の捕獲状況についてはどうなっているのか。

本町は令和2年度も3年度も、300頭以上の鹿が捕獲されているが、他の町も同じような状況なのか。

状況によっては、解体施設などに投資することも検討しているのではないのか。

「まちづくりアーカイブ事業を実施し地域おこし協力隊を活用する」とあるが、正直任期終了後の協力隊がどうやって本町に定住するのか見づらいので、それよりかは鹿の解体施設などに投資してそこに協力隊を

活用した方が、任期終了後の定住の計画など考えるとふさわしいと思う。

内村町長

ニセコ、蘭越、倶知安については、鹿は100頭前後と聞いている。

現状全ての町村は倶知安町の処理施設に持って行っている状況ではある。

今後有効利用するための解体施設も検討をしていかなければならないと思うので、広域的な連携も含めて、検討していきたい。

まちづくりアーカイブの件についてだが、様々な町の歴史や出来事などを、次代に引き継いでいくためにできるだけ資料を、きちんと整理をして残しておく必要があると思っ

これらの活動を地域おこし協力隊が行い、その後どうするんだという話になるかと思うが、町の歴史や資料等々の部分については、引き続き様々な形で利用していったり、またそれを用いる人を呼び込む資源として使うことも可能かと思うので、例えばガイドとしての育成とかも

別町のPRの方法についてはどのように考えているのか。

内村町長

地域おこし協力隊については、様々な形で町に残っていた、定住していただくという前提で進めているので、様々な職業を選択していただいて、残っていただくという道を作ってきている。

今後、町を紹介するようなガイド的なことや、喜茂別の自然を使った体験型のアクティビティのガイド等、幅広く残っていく方策を検討してまいりたい。

女子野球の選手の紹介について十分できる環境にはある。

例年秋に行っているまちづくり懇談会についても、オンラインであれば秋の時期でなくても開催ができるということであれば、検討したい。

小川議員

京極町では1月末に、燃料購入券というものを一般財源70万円を使って1世帯あたり5千円ずつ1千4百世帯に配布するという報道があった。

この報道を見て多くの町民から本町でもできないのかな、という声が上がっていた。

本町の財政状況を考えると全世帯に配布するのは難しい部分もあると思うが、本町では検討していないのか。

内村町長

本町においては、全世帯に対して燃料の助成をするといったことは行っていないが、非課税世帯や経済的に低所得の方々については、道の助成もいただきながら、灯油に限らず、寒冷地での生活を支援するという中で、今年は1世帯あたり1万3千円の助成を行っている。

全体をやるとなると財政的な負担も大きくなるが、来冬については検討をしたい。

小川議員

保育所でコロナのクラスターが発生してしまったこともあって、子どもたちが精神的なストレスを抱えているんじゃないかと心配している。

コロナ禍によって友達と自由に遊べなかったり、給食のときも黙食をすることによってコ

含めて検討をしていきたい。

山下議員

先日の決算特別委員会で喜茂別町福祉介護人材確保育成協議会について質問したところ、令和4年度に関しては事業委託も考えているという答弁もあったが、どうなっているのか。

内村町長

今回若干ではあるが、委託料を計上させていただいて、その中でとり進めを図っていき



小川泰樹議員

小川議員

地域おこし協力隊や地域プロジェクトマネージャーが、任期終了後も本町に暮らしたいと思っ

また、地域おこし協力隊、地

コミュニケーションが取りづらかったりと色々あると思う。

コロナ禍になって2年間で経ってしまったが、子どもたちの姿に変わった部分はあるのか。

細田教育長

子どもたちはその環境の中で色々創意工夫を凝らしながら制約を受けた行事であっても、自分たちができる精一杯のことをやってくれている。

決して暗い感じで学校生活を暮らしているわけではない。

子どもたちには、非常に活き活きと学校生活を暮らしている。

議員が心配されていた点については、私は心配ないかなと思っ



菊地光男議員

菊地議員

本会議の初日に役場機構の見

域プロジェクトマネージャー、地域活性化起業者の方々には町の広報とかテレビとか新聞とかに出て、メディア露出するパターンも多いと思うが、実際にじゃあどのような活動を日々本町でやっているのかっていうのを知らない町民の方も多いと思う。

例えば協力隊の活動報告会を今コロナ禍で人々が集まるのが難しいのであればオンライン開催をしたり、毎年やってる、まちづくり懇談会も去年は参加者がいつもより少ないなと感じたので、オンラインで見れるようにするっていうのも一つの手だと思っ

オンライン開催することによって、会場に参加できない年代層の方々の質問とかを取り入れる機会もできると思っ

また、女子野球のホーネットレディースが本町で練習をしていると思うが、実際どういった選手がいるのか分からない町民の方もあると思うので、オンラインを活用して、例えば選手紹介の動画を町で作成し、いつでも見れるようにするのも一つの手かなと思っ

オンラインを活用しての喜茂

直しに伴う課設置条例の改正案が可決している。

議案の自身には、新たな職務の増や見直しに伴う課の新設であるが、職員数は現状のままとなっており、職員の負担が増加する形となっている。

議案の審議の折に私は管理職会議の場をとおして職員のコミュニケーションの大切さを申し上げているが、このような現状が長期にわたって続くとするならば、職員の不満が増大することが予想される。

先の議案審議における町長の答弁では、職員との話し合いを経ての提案と答弁されているが、その話し合いの中で副町長を置くことに関する議論があったかどうか伺いたい。

内村町長

副町長を置くことについては、様々な意見を職員からいただいた。

財政的な状況が許せば、当然置いて執行にあたるということが本来の姿かと思うので、できるだけ早くそういった本来の姿に戻せるように、財政の健全化をこれからは進めながら、1日

でも早いような形で執行体制を本来の姿に戻していけるように取り組んで進めてまいりたい。

菊地議員

事務方を統括するポストである副町長を置いた方が良く、思っている管理職以外の職員も多数いるのではないかと推測をしている。

副町長を置く置かないに関する意見交換を、やはり管理職以外の多くの職員とも行う必要があると思っている。

また本町の財政が厳しいとの判断から町長が副町長の分まで頑張る姿は一定の評価はできるが、いつまでも町の財政状況の厳しさを理由に副町長を置かずの町政執行は職員も納得しないのではないかと思う。

町長は昨年の3月定例会で自分の間、副町長を置かないという特例条例を提出しており、その際私は、就任して間もない町長の考えに理解を示し、賛成をしている。

しかしながら本年度は内村町政1期目の折り返しの地点である。

役場の組織を早期の体制に戻

すことを検討する時期が来ているのではないかと思っている。そこで副町長を置く時期の判断について、はっきりとしたものを職員に打ち出すべきではないかと思っている。その考えについて伺いたい。

内村町長

財政状況が大変厳しい状況は続いているのは確かだが、令和2年度の決算、令和3年度の決算の見込み含めて、財政調整基金についても少しずつ以前のようない形に戻りつつある。

とはいっても様々な課題はまだ山積をしているが、町政の速やかな執行等々を含めてその体制を整えていくということは大切なことと認識をしているので、今いただいた意見を踏まえ令和4年度の中で、その判断をしてまいりたい。

菊地議員

テレワークやオンラインによる働き方が増え、従来の働き方の形が大きく変化をしてる現状がある。

町内の全域に構築されている光ファイバーを活用した新しい

働き方に即した雇用の創出、女性や高齢者など誰もが活躍できる環境の整備を企業と連携して推進すると述べられているが、本町における具体的な取り組みとしてどのようなことを考えているか。

内村町長

農業のデジタルトランスフォーメーションの部分はどうやって進めていくか検討をしていきたい。

テレワークや働く場所を選ばないことを検討している企業が非常に多くなってきたという話も伺っているし、私もそういった観点で企業の訪問をさせていたでいてるので、意見交換を進め、資産を有効に活用しながら、企業等の誘致を含めた新たな働き方の改革について検討を進めてまいりたい。

菊地議員

小中学校全校を対象とした学校運営協議会で、小中一貫校の導入を意識した議論もされるのではないかと推測をしている。

本町の学校運営協議会で議論すべき課題の一つとなるのか、

本町における小中一貫校に関する考え方を伺う。

細田教育長

義務教育9年間の一貫性、連続性をもった教育を進めていく目的を達成するために第一に手をつけたかと考えているのは、小中連携である。

その先にあるものが小中一貫教育だと思っている。

今回、協議会を設立するが、小中一貫教育の考え方についても当然議論がされるべきものであると思う。

現在の本町の学校規模を踏まえた中で一貫教育といっても形は様々で、義務教育学校だけが小中一貫教育ではなく、小中併置という形での一貫教育もあるので、一貫教育のあり方、形についても住民の皆様とも議論できる場を持っていきたいと考えている。

内村町長

執行方針等々への記載の部分は、ご指摘の部分を押さえて、今後気をつけてまいりたい。

ただ私の思いとしては、ホワイトアスパラの生産については喜茂別が発祥の地でもあり、何とか再興していきたい。

松田議員

なんでこれが産業振興課で取り組む農業政策ではないのか。

内村町長

デジタル化の中で様々なデータを取り、生産のみならずその販売先等々の関係も含めて検討をしていくということなので、そういった観点から、今回企画サイドの予算で計上をさせていただいた。



松田 薫議員

松田議員

アスパラ振興策の関係で専門家と連携したハウス栽培の確立、ITを活用したといっているが、産業課の方でとり進めていくことができないのか、そしてなんでこれが企画室にいくのか、この辺のメカニズムがさっぱりわからない。

D X推進事業については去年のカーボンニュートラルの関係と同じように右から左に獲得した予算をそのままそっくりどこかにやるみたいなイメージで進んでいくのか。

そういう意味で、提案するにあたっては、どういう趣旨でもってこの事業を推進するか、議会にきちっと見せてもらわなかったら、なかなか理解できない。

アスパラ関連の袋栽培の記事が新聞に出ていたが、全く採算性を度外視した学者のお遊びだ

なという印象しか受けない。

いくらこんなことやったって結局、専門家がやるんだろけども、これをやったからって役所の中でイノベーションというのは絶対起きてこない。

どこが担うか、庁舎内で、きちっとしたコンセンサスができているのか説明してほしい。

内村町長

袋栽培の関係については、一つのやり方としてこういうのもあるということであって、これがD Xの全てではない。

ホワイトアスパラについては、生産量がかなり落ちてきているというのは、間違いのないことであり、クレードルでも原料の確保がここ数年は困難な状況があると言われている。

そういった中で新たな品種、新たな生産の方法といったものを考えていきながら、そこに生産をしていただける方々を入れていかなければならないと思う。

新規に就農をされる方々が、そのデータに基づいたハウスによるアスパラの栽培といったものも検討をしていかなければなら

らないのではないか。

そういった研究事業として、農家、農協、クレードルの方々を含めて、協議会を作り、その中で検討を進めていきたい。

松田議員

それだけ想いを込めて農業振興に対して取り組む姿勢があるのなら、なぜ執行方針に載っていないのか不思議である。

なんで農業振興課が、やらないのか不思議。

そもそもなんでアスパラの生産が減少していったかというのと、やっぱり労働生産性が悪いからなんだよね。

役所の論理だけ、学者の話だけを聞いて、財源確保には公益財団法人のお金でも確保できるみたいな、そんなレベルで、農業を軽々しく取り扱って欲しくないって思いが実際にある。

町長の思いが、住民に伝わってほしいって強い思いがあるなら、執行方針にビシッって入れなかったら、おかしいことだと思う。

毎年の執行方針は随分立派にできていると褒めてきたけど、今回の執行方針は一番ダメだ。

表紙写真を募集します。

あなたの写真が議会だよりの表紙になります。

詳しくは議会事務局まで



予算特別委員会審議の要旨（3月14日開催）

令和4年度喜茂別町
一般会計予算

岩部委員

防災にも資する自立・分散型エネルギーシステムの導入とは、どのようなものか。

木下総務課長補佐

災害が発生した際に、各家庭にソーラーパネルを設置したり、バッテリーを組み合わせるなどによって、停電にならないような仕組みを導入する。

岩部委員

森林整備保全について、森林・山村多面的機能発揮事業、豊かな森づくり推進事業とあるが、どのようなものか。

大元産業振興課長

森林・山村多面的機能発揮事業は、森林を所有する団体等がその所有する森林を多様な機能を発揮するために整備するために国並びに道、町で一定額を支援して整備する事業である。

豊かな森づくり推進事業は、森林所有者の造林事業にあたり、通常森林経営計画に算入されている森林については、国庫補助により事業費の約68%が助成され、残り32%の自己負担に對して、北海道と町で一部を支援する事業になる。

岩部委員

地域包括ケアシステムに関連したことで、制度の垣根を超えて多職種・多機関の協働によって課題解決を図る仕組みについてとあるが、具体的にどのようなものか。

東原元気応援課長

介護予防事業に関しては、どちらかというと、自治体主導的なものが多いが、そこから住民同士がお互いに協力し合うような形で今後やっていきたい。

岩部委員

放課後児童クラブでのタブレット通信の接続環境が整備されるそうだが、タブレット端末

をどのように活用されることを想定しているのか伺う。

細田教育長

今学校ではタブレットの持ち帰りを行っており、一つの目的としては、いつ学級閉鎖、休業になってもオンライン授業を実施できる環境を整えておくというのが一点である。

もう一点は、本町ではAIソフット、Eライブラリーというものを導入していて、これを活用して家庭学習に活用していく予定である。

放課後児童クラブに来た子どもたちはそこでそれぞれ学習をするが、その中で宿題とかもしていくので、そのEライブラリーまたはデジタル教科書等を活用できる環境が必要となったことから、このたび整備する。

阿部委員

種子馬鈴薯振興対策費百50万円と、新規事業の食用馬鈴薯生産振興対策費百20万円が計上されているが、シストセンチュウ

対策として認識してよいのか。ホワイトアスパラガス振興奨励事業補助金百54万円は、従来よりクレードルに出荷する原料に對しての補助金として認識してよいのか。

大元産業振興課長

種子馬鈴薯については昨年同様の内容である。

食用馬鈴薯の生産振興対策事業補助金は、昨年の予算特別委員会委員より質問があり、シストセンチュウ対策としてJAようていと話をし新規計上したものである。

またホワイトアスパラガスについてもクレードルに對しての原料の支援である。

阿部委員

2月の町広報誌で366名を対象に敬老会事業のアンケートの結果が記載されているが、どのような目的で実施したのか。

内村町長

コロナの関係で2年間式典が

実施できない状況の中で、代わりに祝い金の形で支出した。

3割が式典に参加し余興を楽しんだりしているが、7割が参加されていない中でお祝い金の一つの楽しみにしているとの話もあった。

今後同じような形の会を催すことがどうか、意見として機会を設ける趣旨でアンケートを開催した。

阿部委員

昨年祝い金の支給方法について、5年毎に支給する内容の書類を配付した経緯があった。

これによって受給される方、されない方と区別され不公平な取り扱いになった。

これは平等の原理原則の根幹に関わる重大なことに捉えている。

一方で近隣町村では、毎年支給されているという話も聞いており、本町でも見直す必要があると思うが町長に伺う。

内村町長

公の支給については、近隣町村の状況も踏まえて検討したい。

平等な取り扱いがまず第一と

思う。

4年度の中でお祝い金の関係、会の運営のあり方について検討を進めていきたい。

阿部委員

敬老会、成人式は本町にとつては大切な伝統行事だと考えている。

高齢の方は本町発展の礎を作り上げ、社会にも多大な貢献をされた方々であり、行政として敬意を忘れてはならないと思う。

年に一度皆さんと一堂に会したいと言った方もいる。

安易にアンケートを取り意見を聞くのは、高齢の方々に誤解と不安を感じさせ、行政がこのようなことをすることに強く懸念する。

内村町長

今後の運営のあり方を高齢の方々に確認をする趣旨であり、全くその会を止めてしまおうということが最初からあってアンケートを取ったわけではない。様々な意見がある程度集約して見ていきたいとの考え方である。

阿部委員

クレードル興農について、昨年12月定例会の私の一般質問への回答では、経済産業局へ相談するよう要請したとあったが、具体的にはどのようなことか。

内村町長

今後、設備の更新計画が出てきた際に経済産業局含め、国の支援を受けられるような体制を取っていただくと考えている。

阿部委員

三川工場を閉鎖し製品ラインが喜茂別に来るが、いつ頃を目途に計画書が提出されるのか。

内村町長

3月の取締役員会で社長の方に設備更新の計画について、早急に検討をするよう話をした。

阿部委員

今後は、喜茂別と伊達工場の二つの工場で生産されると思うが、伊達市長と今後の政策について協議されているのか。

内村町長

伊達市長には、特に私の方か

ら連絡は行っていない。



クレードル興農

阿部委員

設備の老朽化に伴い相当な原資が必要だと思ふ。

このことについて北海道、伊達市、ようてい農協に對してどのような形で支援をするのか、共有の認識をもたれているのか伺う。

内村町長

クレードル側は、今現在どのような設備の更新が必要なのか社長の方でも決めかねている部分がある。

町の方としてもそれらを受けた中で、今後株主にどういった協力を求めていくか検討したい。

阿部委員

本町として、資金援助となれば具体的にどのようなことを考えているのか。

内村町長

国、道の支援も含め町が合わせて支援をしていくような形が考えられる。

阿部委員

資金援助には税金を使うことになるので、町民が納得する形が良いと思う。

以前にも計画された、クレードルが所有する土地の一部を財産取得の名目で町が購入することも支援策と思うが、このことについて伺う。

内村町長

本町のまちづくりに必要な部分について、協議をしながら財産の取得も支援策のあり方として考えられる。

阿部委員

プロジェクトマネージャーについては議会が議決してることから業務の検証について責任がある。

未だに年次計画書、業務報告書が提出されていない理由を伺いたい。

内村町長

プロジェクトマネージャーを導入しておおよそ9か月の期間、町民の方々の検討会の設置、女子野球に対する様々な部分の検討を進めてきた。

年次計画について3月の中で一定のものを作成をし、令和4年度どのような形で進めていくか計画を作り議会が検証できる形で提出したい。

阿部委員

どのような基準で採用されたのか、また副業について本人から町長へどのような過程で話が進んでいったのか。

内村町長

採用基準については、野球に関する知識、女子野球に対しての理解、本町を拠点とするホーネットレディースとの関りや全日本女子野球連盟をはじめとした他の団体との関係性を築くことができ、広く各方面に人脈をもって女子野球選手や関係団体を通じた就職先の確保にあたっ

では、町内の事業所との調整など地域との関わりが重要になってくることから、それを繋げていくことができる調整力が重要となるものと思っています。

それらに基づき、この調整力を大きな柱として採用基準ということにしています。

副業については、本町の大きな課題である福祉介護人材の確保について、プロジェクトマネージャーから現状を知っておくことが今後の課題解決に重要なこととなるのではないかと提案もあり、許可をした。

阿部委員

本来の業務は多種目、広範囲にあると思うが、副業との兼務では職務に専念できない。だから実績がでない。

本来本町活性化の優先順位は何か、いろんなことを試行錯誤しなければならないと思う。

それが月額54万円の報酬を受け取る対価だと思う。

一方で農協、商工会、その他関係者と会議があったことを聞いた。

参加者からは丸投げされた感じで疑問をもっていると思うが、このことについて伺う。

内村町長

色々議論があったことは承知している。

2年度以降の計画の推進を含め再度地域プロジェクトマネージャーとも確認し進めていく。

阿部委員

業務の姿勢を見る限り、令和4年度も更新するのはいかなものか。

コロナが発生している中でも、土曜日日曜日を返上して仕事に頑張っている職員や夜遅くまで頑張っている職員もいる。

その職員を見たら、プロジェクトマネージャーのあり方は到底理解できることではない。適任なのか不適任なのか町長に伺う。

内村町長

総務省の指針では、1年目は課題を十分把握し、2年目以降は解決に向けて進めるとある。

その成果について議会に報告がないのは事実であり、令和4年度は工夫を重ねながら進めていきたい。

阿部委員

昨年11月の総務常任委員会でもクリニックの検査機器の実態の説明を受け、令和3年度には超音波検査機器、血液敏速検査機器の2台が導入された。

レントゲンは老朽化に伴い更新時期であり、骨密度測定器は現在故障のため使用されていないと聞く。

本町は65歳以上が42%以上で高齢の方が多い。

骨密度が減少し骨折しやすくなることを予防し、町民の健康を守るためにも必要な医療機器と認識するが考えを伺う。

内村町長

レントゲンと骨密度測定器については、辻院長と十分意見交換をし、重要性については財源の確保も含めて検討し、来年度に向けて整備を進めていく体制を取っていただければと考えている。

阿部委員

公用車は町長の公務のためにある専用車だと思うが、車庫に置かれている状態が多く見られる。

町長が公務の場合、公用車以外の車を使用しているのか。

内村町長

公務で会議に出席した後、違う会場で町の課題について陳情などをする場面がある。

政務と公務が同時にある中で移動手段については難しい状況がある。

公用車ではなく違う移動手段を取る場合もあると考えている。

阿部委員

借上車と公用車の違いは何か。

公用車の場合は、使用目的の管理日報が必要となるが、借上車にはその必要がない。

万が一事故が発生した場合、公的か私的かの判断が難しいと思う。

特別な事情がない限り公人は公務を行う場合、公用車を使用することが基本原則と思うが考えを伺う。

内村町長

政務の部分、疑義のあるところは公務として全てを行うということにはならないと思う。

阿部委員

町長は住民の声を聞いて行政に活かしたいと掲げ当選した。住民自治を保障する公約であったと認識している。

しかし議会へ報告する前に町長のコメントとして新聞に記載され議会にはいつも行政報告で後付けになっている。

これでは行政と議会の議論が成立しない、議員は町民に説明する義務がある。

このままでは町民との信頼関係が築けず、町長が掲げた住民自治が成立しないと強く感じる。

改めて住民自治の基本的考え方を問うとともに住民との信頼関係を築くにはなにが必要か町長に伺う。

内村町長

住民自治の部分については、様々な意見を交換し、状況を共有していくのが重要なことと考える。

全てのことがその意見をいただいた者に沿っていくことにはなかなかならない場面がある。

山下委員

胆振線代替バスについて、令

和3年度は7年に1度の車両の更新期で中型車4台を更新したとのことだが、古い車両は廃棄しているのか。

木下総務課長補佐

下取りしてもらっている。

山下委員

7年に1度新車を購入するというのは、随分羽振りがいいような気がするが、更新期間を長くする予定はないのか。

内村町長

当初6年ごとの更新だったが、今の車両の状態等々含めると少し早いのではないかという議論が協議会であり、7年に1回の更新というふうに改めた。7年が本当に適当なのかどうかについては、協議会の中でまた議論をしていく必要があると考えている。

山下委員

令和4年度には大型車1台の更新が予定されているとあるが、果たして必要なのか。

内村町長

本町から倶知安町までの間で

あれば、特に大型車でなくてもいい。

ただ、京極町から乗られる方が、特に通学の時間帯が非常に多く、伊達の方からも1台来て2台連なっていくような状況になっている。

山下委員

町長交際費が60万円とある。昨年は50万で、その前はずっと40万円だったと記憶しているが、あげた理由を教えてください。

菊地総務課長

実績とか見込みを精査しての計上であるが、令和4年度については、例えば俱知安高校の開校百周年記念式典などもあり、その辺のところも加味した。

山下委員

火葬場の修繕料が百67万8千円となっているが、留寿都村も一部負担するのか。

井原住民課長

現状では負担は求めている。

山下委員

今年は500万円以上も火葬場

費がかかっているが、留寿都村同様廃止した方がいいという考えにはならないのか。

内村町長

直ちに火葬場を廃止するという議論は今のところしていない。

火葬炉等の修繕その他管理も行なってきたので、今すぐに使えなくなるという状況ではないことから、当面継続をしていき、ランニングコスト等も踏まえて、今後維持等を考えたときに、本町が単独で持つのがどうなのかを検討する。

山下委員

私も直ちに廃止するべきだと思っているわけではないが、廃止しないなら、せつかく留寿都村と一緒にやるとなったので、もう少し留寿都村の負担を増やすような動きをした方がいいのかなと思っているがどうか。

内村町長

留寿都村との協議の中で現状の形で、協定を結んでいるので、大きな変更があれば、また協議をすることになる。

始まってまだ2年ぐらいの状

況の中で、大きな変更をもたらすような状況ではないと考えている。

山下委員

町政執行方針には新規就農者の確保に向けた取り組みを進めるとあった。

現在は新型コロナウイルスの影響などもあり、都会を離れて田舎に移住して農業をしたいという考えの人も増えているように聞く。

Uターンで農業をするという人はたまに見かけるが、Iターンで新規就農するという話はしばらく聞いた記憶がない。

本町の農家の中には高齢でそろそろ引退しようと考えている方もいると聞くので、そういう人同士をマッチングさせるなどの対策は考えていないのか。

内村町長

新たな新規就農者の仕組みづくりについては、令和4年度の中で検討をして、新たに農業に就きたいといった方々との接点を作っていきたい。

山下委員

中山峠地域振興費が3千百28

ことは不可能だと思っている。

山下委員

正直、私は地域プロジェクトマネージャー事業を始めると聞いたときから大いに疑問だった。

こういう事業はきちんと数値目標を決めることが重要である。

それを決めないと事業が成功したのか失敗したのか、なあなあになるからである。

幸い3年で15人を移住させるという心強い数値目標が答弁された。

この数値目標が発表されているのであれば、私はその場で反対していたと思う。

3年で15人を移住させるということは非常に難しいと思う、どのように管理するのか質問したところ、活動内容をホームページなど様々なところで公表すると、心強い答弁がされた。

そしてスケジュールどおりいかなどと任期を更新しないとの答弁も頂いた。

しかし、未だにこの最重要事項のスケジュールがホームページにはない。

初年度の任期は今年の3月

万円となっている。

昨年より1千万円減っているが、今年は工事請負費が5百30万円計上されている。

町長が自分の在職中に中山峠をどうしたいというビジョンがあれば教えてください。

内村町長

本町の観光の一つの重要な施設であるといえると思うが、ここ数年コロナの影響もあって事業としてはなかなか厳しい状況が続いている。

施設も、新しい物産館等々を建設してから40年近くが経つ中で、相当老朽化している。

また、もう一つ大きな課題として、水道の施設がかなり老朽化している。

そういった状況の中にあっても、道の駅として機能を果たしている部分もあるので、今すぐに廃止するとはならないと思っている。

ただ、スキー場については、リフトの老朽化、ホテル、ロッジの方の傷み等も出てきている。

今現在運営をしていたら、事業者からも、事故があつてからでは取り返しがつかないの

いっぱいだと思うが、スケジュールがないと、更新の判断ができないと思っている。

どう判断するつもりなのか。

内村町長

3月の時点で計画ができてないという指摘については、そのとおりである。

ただ、4年度に向けて取り組んでいく内容については、プロジェクトマネージャーとも協議を重ねているところであり、国の指針等で定められているとおり、1年目については現場というか、町に慣れていたかどうか、町に慣れたことである。2年目3年目以降にそういった課題の成果を追求して、移住の目標を達成していくということが重要なことと考えている。

更新については、4月に入ったら、議会にも示せるように進めていきたい。

山下委員

この件に関しては12月の定例会で一般質問したが、町長は「大変申し訳なく思っている。速やかに公開できるよう進めてまいりたい」と答弁している。

あれから3か月、プロジェクト



中山峠

で今後についてどのような対応をしていくのか、早急に検討をしていただきたいというお話もいただいている。

中山峠全体の観光施設、今後どうあるべきかということについて、この令和4年度の中で、様々な議論をする機会を設けていきたい。

山下委員

栄地区の町営住宅を5百45万円かけて解体撤去工事するとある。

本町の最大の課題は人口減少であり、その最大の鍵は住宅問題だと私は度々申しているが、

ということは、この住宅に関しては、法律上、例えばテレワークの施設とか、今の住宅以外の使い方はできないという理解でいいのか。

秋山建設課長

耐震基準を満たしていないので、何かあった場合のことを考えた場合には、住宅として、あるいは他の用途として使用する

トマネージャーが就任してから半年以上が経っているにも関わらず公開できていない。

このプロジェクトの大前提が崩れたことになるのではないかと私は思っている。

この1年の実績を見る限り残り2年で15人を移住させるのは難しいと思っているがどうか。

内村町長

それについてはまだ時期が早いのではないかと考えている。

3年ではないことなので、今後これから2年間精力的に取り組むことによって、この目標について少しでも近づけていくことが肝要なのではないかと考えている。

山下委員

私がこの地域プロジェクトマネージャーに求めることは二つである。

一つは3年で15人移住させること。

もう一つは任期終了後も本町に残ることである。

それさえ達成できれば、月額54万円の給料も高くはないし、副業していても構わないと思う。

しかしそれは達成できればの話である。

スケジュールを公表できていないことを考えると3年で15人を移住させることは無理だろうし、任期終了後本町に残るかどうかも大いに疑問である。

また私がイメージしていた人は、任期終了後10年20年と本町の活性化に貢献してくれるような世代の方で、当然家族を連れてくるような方だった。

しかし、現在担当している方はそうではないと思う。

担当者を変えろという気はなさそうだが、本当に任期終了後本町に定住できるのか。

内村町長

定住できるかどうかということも今後の2年間にかけているのではないかなと思う。

本町の希望としては引き続き残っていたらいい、様々な形でまちづくりにご協力をいただければいいというのが理想だと思っているので、今後また追求をしていきたい。

小川委員

きちんと分別されていない廃プラスチックごみは、ごみ処理

小川委員

学校運営協議会の人員はどのような選出方法で選ばれるのか。

細田教育長

各学校から推薦を上げていただいて、教育委員会議の中で決定していくという形をとりたい。

小川委員

旧中学校の体育館の解体事業で2千6百万円の予算が計上されているが、旧中学校の校舎の解体予定は決まっているのか。

秋山建設課長

校舎は耐用年数が残っており解体には多額の費用が生じるので未定である。

小川委員

地域おこし協力隊の事業費が2千4百97万3千円で、現在4名の協力隊が活動されていると思うが、引き続き募集をする予定なのか。

木下総務課長補佐

引き続き募集する予定である。

小川委員

4名の協力隊はそれぞれ業務内容や目標が異なると思うが、協力隊と総務課でミーティングは定期的に行っているのか。

木下総務課長補佐

週に1回、定期的なミーティングを行っている。

小川委員

地域活性化起業人交流事業で現在2名が本町で活動している。

ツイッターのアカウントを作成して情報発信をしているのは見受けられるが、他にはどういうことを行っているのか、今後予定されている動きはあるのか。

木下総務課長補佐

各マスコミ、マスメディアに情報を発信してだが、テレビ局には情報を発信できていなかったの、本町の情報をテレビで流して、知ってもらいような情報発信をしてきた。

引き続きこのような形で広く情報を発信していただくことと、本町で不足しているSNS

場に持つていかずに、そのままごみステーションに放置されて、他の町民がごみを捨てたくても、そのごみが溜まって捨てられないけど、何とかならないのかという質問を以前した。

今後検討していきたいという答弁だったが、改善されたのか。

井原住民課長

まちづくり懇談会で同様の質問があり、回収については収集業者と打ち合わせしながら改善に取り組んだ結果、解消されてきているステーションもある。

住民の分別に対する取り組みの成果と、環境衛生委員会と協力しながら進めてきた部分があり、引き続き改善に向けて取り組んでいきたい。

小川委員

インターネットを活用したりモート面談を行い、介護・福祉従事者の移住者を獲得できたところがあるが、成果を伺いたい。

東原元気応援課長

4名確保できたが、数はまだ充分ではない。

まだまだゼロカーボンがどういうことなのか、内部でも外部でも話し合われていない状況である。

ゼロカーボンを推進していくために役場の内部と、この推進委員は役場外で考えているが、実際にゼロカーボン、再エネを進めていくにあたり、皆さんと協議した上で推進していくという考えであり、そのための委員会になっている。

小川委員

町広報に入ってた資料を見てなんとなくこういうことを目指しているんだと理解してる町民はいると思うが、実際に町民がゼロカーボンに向けて出来ることは何かあるのか。

木下総務課長補佐

家の室内の温度を冬場は26度、夏場はなるべくエアコンを使わないことや、自家用車は、ハイブリッドや電気自動車、これから主流になると思われる水素エネルギー自動車を使用する等、様々なことがあると思う。

小川委員

本町の二酸化炭素の排出量は

数値的には大きいものなのか。

木下総務課長補佐

年間約20トンの排出量がある。

吸収量と差し引きすると約57%プラスになっている。

冬期間に灯油で暖房をつけることが原因になっているので、室内での温度設定や、今後各家庭に例えばソーラーパネルをつけて、暖房を電氣化していくことで排出量を抑えていけると想定している。

小川委員

本町の降雪量等を考えると一般家庭でソーラーパネルを設置するのは少し難しいと思うが、実際に設置するとなれば補助金は検討するのか。

内村町長

窓や壁を利用した設置の仕方等々、豪雪地帯であっても様々な研究の中で実用化されつつある。

その点も含め推進委員会の中の議論をしていただき、制度を作っていくことも視野に入れながら、検討を進めたい。

小川委員

敬老会の全体予算を見たら百84万3千円と記載されている。記念品と演芸会の報奨で百9万6千円とあるが、残りの75万円の内訳は、どこに記載されているのか。

東原元気応援課長

需用費の消耗品費及び食糧費の中に一部入っており、扶助費の中の敬老福祉金にお祝いが入っているので合計してその額になる。

小川委員

農林業費の備品購入費に児童用木製玩具で百万円とあるが、どのようなものか。

大元産業振興課長

保育所で使用するもので、8項目34種類を予定している。

小川委員

正直高いなど感じる。なぜ教育関係ではなく、林業費に入っているのか。

大元産業振興課長

保育所より木製玩具の購入に

内村町長

政務の部分については公務ではないので、何らかの公費が出るということではない。

小川委員

寄付行為には該当されないという認識でいいのか。

内村町長

そういった観点での検討はしたことがなかったので、今どちらかというとことはちよつと言えない。

政務で利用しているものについては、公務ではないので、そこはつきり公務でないものに公費を出すことにはならない。

小川委員

万が一、事故を起こしたときは、どのような対応をするのか。

内村町長

公務の場合は、公務災害補償基金でそれは判断をされる。政務の場合についてはあくまでも政務ということで、公務には当たらないと理解をしている。

ついで相談があった。

現在、森林環境譲与税譲与金を町は受けており、木育の一環として、木と触れ合い、幼少期から木の温もりを感じ、森林に興味、関心を引き出す趣旨から今回林業費で予算を計上した。金額については、木製遊具ということもあり確かに単価的には通常の玩具よりも高いと感じているが、種類を結構買うので、このぐらい計上をした。

小川委員

夏まつり実行委員会補助金で2百50万円計上されているが、コロナの影響により2年連続で夏まつりが開催できていない。今年もコロナの情勢を見ながらの開催判断になると思うが、3年ぶりに開催するとなった時に、過去2年分の補助金を上乘せする考えは町長にはあるのか。

内村町長

今回、夏まつりが開催できれば10回目の節目にあたるので、例年の金額より百万円程度多く補助金を見ている。

松田委員

町長の公務と政務の関係で議論になっていていい勉強になる。

本来は公用車の運行記録簿を整理していれば、公務や政務が予算委員会で議論の対象にならないと思うが町長の考え方を伺う。

内村町長

公用車の使用にあたっては、使用記録簿は規定の中にあると思う。

その辺は則った処理をしていることが当然と考えている。

松田委員

今年の主な事業予算で自治体のDX推進事業5百万円がメインになると思う。自治体DX推進事業の本当の名称はなにか。

町村振興協会からの助成金の説明があったと思うが、交付決定が町で受けているのか。

内村町長

先駆的調査・実証プロジェクト推進事業助成金が正式名称である。

小川委員

前菅原町長は、中山峠と札幌市南区をトンネルで結ぶ計画の話を頻繁にしていたと思うが、内村町長はトンネル化計画についてどのように考えているのか。

内村町長

中山峠の現状、冬場の対策等々、以前に2年続けて土砂崩れで通行止めになった経緯もあるので、防災も含めて、トンネル化は必要なことではないかと思う。

道路の整備にあたっては国防の観点も含めて、広域的に利用される道路整備については是非検討をさせていただきたいと、様々な機関にお願いをしているが、国の予算の枠組みの中では、今何かすぐに着手できるような状況ではないと理解をしている。

小川委員

児童生徒報償3万5千円の内容を詳しく伺いたい。

丸屋教育次長

クロスカントリー等のスポーツや文化系のもので上位になっ

た小学生に褒賞として渡している。

中学生の場合は、スポーツ貢献賞と文化貢献賞の表彰規定がある。

小川委員

公用車に月7万円かかっている中、町長が私用車を使うには借り上げの手続きや借上料はどうしているのか。

内村町長

公務に使う場合と政務に使う場合があり、政務に使う場合は発生しないと理解をしている。

公務の場合は、公用車を使っていく場合もあるし、公務と政務が入り混じるような状況の際には自らを律する部分も含めて、公用車を使用しないということもある。

その際の借り上げ料等はいただいていない。

小川委員

借上料は頂いてないということだが、その時使ったガソリン代も、いただいていないという理解でいいのか。

験的な要素もあるということと企画費で計上されたと認識している。

松田委員

成功していくと思うか。

大元産業振興課長

先駆的調査実証プロジェクトということで、成功するかどうかはつきり分からないが、成功すれば次のステップにつながっていると思う。

松田委員

これを担う企画課は、覚悟があるのか。

木下総務課長補佐

これからアスパラガスの栽培を始めていくという人に対して様々なデータをオープンに出すことによって、この先につながっていくと思うので、真剣に取り組んでいく。

松田委員

実証実験は、どのようにイメージしているのか。

木下総務課長補佐

これから実際に進めていく中

で、どれだけの苗、どれだけの広さもこれから詰めて進めるということになる。

松田委員

2年の実証実験に1千万どうやって使うのか、その積算はできているのか。

木下総務課長補佐

苗を買う費用や人件費だけではなく、コンピュターやAIの技術を利用されることになるので、約2年間で1千万という金額になると考えている。

松田委員

女子野球の人たちが、町内に定住してくれればいいなあという話なのか、町内の女子の人が野球部に入って野球を楽しんでくればいいのか、どっちの方がプライオリティが高いのか。

木下総務課長補佐

ホームネットレディースが本町をホームタウンとして活動してくれるようになっていただきたいと願っている。

そのためには、本町に住んでみながら野球を頑張っていたらいいイメージを

している。

本町もそうだが、この山麓地域にも野球をやっている女性や生徒がたくさんいる。

本町内に残って野球を続けていけるという環境をつくるのが大切であると思っている中で、プライオリティはどちらかということではなく、両方を目的としたものである。

松田委員

女子野球と言っても硬式野球であり、町営球場は硬式野球を想定した構造ではない。

バックネットの形状・ダッグアウトの安全確保の問題が全く進めていないが、どう解決するのか。

木下総務課長補佐

町営球場については硬式対応はしていない。

練習はキャッチボール時には硬式野球のボール使い、バッティング練習の時は軟式ボールを使用している。
練習試合のときは、ボールが飛び、危ないこともあるのでパークゴルフ場には休んでいた。
ファールボールなどが場外に



町営球場

出ていくのでバックネットや周りをネットで囲う必要がある。今後は自治体のクラウドファンディングで費用を集めて整備していく。

スポーツに関わる助成事業、補助事業があるので、うまく合わせて整備したいと考えている。

松田委員

町に墓地の設置条例があるが、どんなものなのか説明を求める。

井原住民課長

条例は喜茂別町が所有する墓地設置は、全部で7か所ある。

1・喜茂別の墓地、2・上尻別の墓地、3・金山の墓地、4・

修正案提案説明

山下委員

地域プロジェクトマネージャー分の報酬、6百50万円を減額いたしたく修正案を提出する。

地域プロジェクトマネージャーについては、令和3年度一般会計予算に当初は業務委託料として計上され、第2回定例会において報酬に改められ月額54万円として関連の条例の改正を行った。

議会での議論の経過を振り返ると、令和3年3月第1回定例会の予算審議においては、町からはスポーツを通じて交流人口の増加や地域振興に長けた方を採用したい、また、任期終了後も定住に繋がればと考えているとの考えが示された。

また、6月第2回定例会の答弁で、会計年度職員として本町の地域課題を解決してもらうため、女子野球タウンプロジェクトを立ち上げていただく、任期終了後も引き続き住んで頂きたい、目標として15名程度移住して頂ければと述べられていた。

また、活動内容をホームページに公表し、目標を達成するためにスケジュールを立て、3年で数値が達成できないようであれば、そこで任用をやめて継続はしないと述べられている。

さらに、12月第3回定例会で一般質問で、私から6月定例会で答弁したホームページの活動内容、スケジュールの公表が未だになされていないとの指摘をし、町長から陳謝と速やかに公表する旨の答弁をいただいた。

また、数値達成については、具体的な数値は申し上げられない、副業については現場を知ってもらうため重要との答弁をいただいた。

しかしながら、活動内容、スケジュールについて昨年6月の答弁から既に9か月が過ぎようとし、12月に町長が陳謝の上、早急に対応するとの答弁をしながら3か月を経た今現在ホームページの公表がなされていない。

また、公表しないことへの何らの説明もなかった。
私としては、これまで議会に對して答弁してきたことが守られていないことで、答弁に信頼

を置くことができないこと、また質疑を通して、このままでは目的が達成できるとは思えないため、再考を促す意味でも事業を一旦白紙とするべきと考え、修正案を提出する。

※修正案は起立採決の結果、賛成多数により可決されました。

令和4年度喜茂別町簡易水道事業特別会計予算

岩部委員

新たに民間の力を得ながら保守点検と水道施設の維持管理を行うとあるが、具体的にどのようなことか。

秋山建設課長

簡易水道の保守点検、日常点検、管路の保守点検、水質検査、これらは毎日行う。

警報発表時の対応で、水道施設は法令で、毎日行わなければならない作業というのが決められている。

今職員2名体制で、行っているが、新年度においてはこの部分を委託にする。
今後の簡易水道、下水道共に、法適用化、公営企業法の適用化

相川の墓地、5・双葉の墓地、6・栄の墓地、7・中里の墓地、と明記されている。
墓地の使用区域は町長が指定する。
許可を受けない墓地を使用した者には5万以下の過ち料を科すと明記されている。

松田委員

墓地は、罰則規定まで設けた条例に定めた町有地である。
7か所あり2ないし3か所が墓参に行けない。

墓参する人がいないから道路を整備しないのか、整備しないから行けないのか、根源的なものがあると思う。

双葉の墓地には墓碑まであるが行けない状態であり、町はどう考えるか。

墓地も整理して1か所に集める時期が既に来ていると思うが、これについて伺う。

内村町長

墓地の改葬の時期だろうと認識している。

墓地の整備についての財源も検討しながら、早い段階で実施できるよう取り組みを進めていきたい。

ということ、令和6年4月1日から移行されるので、事務量が増えてくることもあり、今回委託に至った。



令和4年度 町政執行方針・教育行政執行方針



令和4年度 喜茂別町予算書

臨時会

第1回臨時会

(1月12日開催)

令和3年度喜茂別町
一般会計補正予算(第10回)

菊地議員

胆振線代替バスの関係について以前の説明の中で、関係市町村中ではすでに基金が底をついてるところもあるという説明を受けている。

本町においても、今回の支出の後の基金残額は3千5百万円程度に減少するわけだが、胆振線代替バスの今後における運営に関する方向性について、現在関係町村の中でどのような議論になっているのか。

内村町長

胆振線の代替輸送の関係については、連絡協議会の中で、伊達市、壮瞥町、本町、京極町、倶知安町で構成をされている

が、昨年2月に協議会を開催した際に、今までの胆振線の伊達から倶知安までの間の運行についてはどうなんだろうという意見が伊達市から出されている。

本町の双葉から伊達市大滝区までの間がほとんど乗車人員がない中で運行されていることが調査等によってわかってきており、その間が比較的距離も長いので、それらを考えると効率的な運行を図っていく上では問題があるのではないかという意見をいただいている。

それらに基づき、令和3年度の中である程度の方向性を出して行かなければならないということとで昨年の協議会の中では話をしていたが、まだ協議会にかけるだけの資料が整ってないとの話だった。

伊達市としては伊達の大滝区からデマンドバスのような形で運行をしたいという意向があつて、その実証実験を令和3年度の中で行っている。



胆振線代替バス

で、胆振線の路線について今後どうしていくかという話をしていくとの認識をしているので、令和3年度中には一定の方向を出すべく協議を重ねてまいりたい。

第2回臨時会

(2月15日開催)

令和3年度喜茂別町
一般会計補正予算(第12回)

山下議員

抗原検査キットを消耗品で買っていると思うが、これは新型コロナウイルス感染対象感染症対策費で全額対応できるのかなと思っていたが、そうではないのは何か理由があるのか。

木下総務課長補佐

抗原検査キットも事業費の対象となる。

ただ全体の総額が決まっているので、その中でこの新型コロナウイルスの様々な感染症対策を行っているが、その交付金から出ている分いまところ出でしまっている事業費分ということとで、この1百20万2千円を一般財源から現在としては持ち出しということになっている。

菊地議員

除雪費の関係で、今年は報道

等によると災害的な記録的な大雪というような言いかたもされており、今後の本町の除雪費に対して国の支援等が見込まれるかどうか伺いたい。

秋山建設課長

今般全道的に除雪費が結構多く、国土交通省にて2月10日付で昨年も道路の除雪費の補助金ということとで本町も交付を受けしたが、道路の除雪費の支援の検討を開始する旨の通知がなされている。

この部分はこれから執行状況の聞き取りを行い、その結果を踏まえて3月を目途に当初から国で確保している予算の追加配分を行うということとで連絡を受けているので、今後の調査をもつて決まると伺っている。

小川議員

新型コロナウイルス感染症対策費の備品購入費で今回エコの機械を町立クリニックに導入するとある。

昨年、総務常任委員会でも町立クリニックに視察に行った時にクリニック側からはエコの機械を導入したいという話を伺っ

てたが、エコの機械以外にも機械を導入したいとかそういった話し合いはクリニック側とは継続的に行われているのか。

東原元気応援課長

老朽化しているものとか今後クリニックが医療計画の中で考えていきたいということについては、優先順位をつけてやっていこうということとで相談し、検討している。

寄付行為の禁止

議会議員は、選挙区内の方にお金や物を贈ることは、法律で禁止されています。

また、有権者が求めてもいません。

ご理解をお願いいたします。

次の定例会は
6月上旬を予定しております。
町民の方の傍聴をお待ちしております。

日程は、IP告知端末又は議会事務局
(TEL33-2217) で確認ください。

議会を傍聴される方へのお願い

- 手洗い・咳エチケット・マスクの着用
- アルコール消毒液での手指の消毒
- 体調がすぐれない方は傍聴をご遠慮願います。



新北海道スタイル

議会の動き

令和4年1月16日～令和4年5月15日

月	日	行 事	出席者	場 所
2	3	全員協議会	全議員	
	15	第2回臨時会	各議員	
		全員協議会	各議員	
	16	後志町村議会議長会 定期総会	議長	倶知安町
		全国過疎地域連盟北海道支部 役員会	議長	書面
	17	全道町村議会議長会 役員会・定期総会	議長	WEB
	18	北海道後期高齢者医療広域連合議会 定例会	議長	札幌市
	28	後志広域連合 議会運営委員会・定例会	組合議員	倶知安町
3	3	議会運営委員会	各委員	
	9～14	第1回定例会	各議員	
	24	北海道町村議会議員公務災害補償等組合議会臨時会	議長	札幌市
	25	羊蹄山麓環境衛生組合議会 定例会	組合議員	倶知安町
		羊蹄山ろく消防組合議会 定例会	組合議員	倶知安町
	29	後志教育研究センター組合議会 定例会	組合議員	倶知安町
	29～30	北海道町村議会議長会 中央要望	議長	東京都
4	14～15	北海道横断自動車道全線開通に向けた勉強会	議長	東京都
	18	総務常任委員会	全委員	
	22	第3回臨時会	全議員	
		議会改革調査特別委員会	全委員	
	25～28	北海道町村議会議長会 優良府県視察研修	議長	福島県
5	6	議会広報編集委員会	全委員	
	9	後志総合開発期成会 理事会・定期総会	議長	ニセコ町
		議会広報編集委員会	全委員	
	10	議会広報編集委員会	各委員	

編集後記



日ごとに暖かくなってきた。知床沖では観光船の沈没事故が起き、2週間以上経過する。今だ行方不明の方の捜索が行われているが、早期の発見を強く望むものである。

国外においては、ロシアによるウクライナ侵攻が行われており、民族、領土問題の解決を武力によって行使している状況だ。

日本もロシアとは国境を接しており、他人事とは思えない。私たち議会議員の任期も残り1年となった。ひとつひとつの課題に向き合い、今まで以上に議員活動に邁進していきたいと思う。

議会広報編集委員長

岩部 剛

